

最低賃金が 6%アップ！政府の意図は？

- ▶ 今年の最低賃金が、全国平均で 63 円引上げられ、全国平均 1116 円、全国平均の時給 1000 円超えとなる。6% 賃上げの余波は。政府の意図は？

(プラス面)

- ・ 当然、パート・アルバイト等の賃金が上がる。
- ・ 物を買う人が増える。お金を使う。
- ・ 会社は効率化、DX 化を進めるようになる。生産性の向上を図るしかない。

(マイナス面)

- ・ 人件費増で、この負担を吸収できない場合、特に中小企業では経営の圧迫。
 - ・ 物価上昇、インフレが起きる。
 - ・ 雇用への悪影響、新規採用抑制、辞めてもらう。
 - ・ 労働時間を短縮して、賃金を下げる。
 - ・ 競争力の低下
- ▶ 結果として、中小企業をふるい落とすことになる。経済成長している国ならわかるが、日本は低成長。ここまで来ると、ついてこれない中小企業が出てくる。これが中小企業淘汰のシナリオ。
 - ▶ インフレを意図的に引き起こそうとしているとしか思えない。インフレで日本円の価値が下がり、借金を圧縮しようとしているのではないか。
 - ▶ 税収が増えている。財政も健全化される。企業は規模が大きいと、お金、人、モノ、仕事は集まりやすい。一人当たりの生産性が上がる。
 - ▶ 賃金を上げて、サービス価格も上げれないと、淘汰される時代がきている。
 - ▶ 社員の不満も変化している。高い賃金を求めている人ばかりではない。あきらめている人もいる、上げられないなら、労基法通りの休みを取らせろ等、せめて労基法を守れという静かな要求がある。
 - ▶ 昔ならストライキだが、今はそうではなくて、辞める人があったり、そうでない人もいる。賃金引き上げと労基法遵守は無関係のように見えるが、そうでもなさようである。